

領域8 インフォーマルミーティング議事録

開催日時：2022/3/18(金) 18:00 - 19:00

開催地：オンライン (Zoom)

議長：楠瀬博明 (領域代表, 明大理工)

司会：片山尚幸 (運営委員代表, 名大工)

議事録作成：石角元志 (書記, CROSS)

出席者

領域代表 (2021/4 - 2022/3) 楠瀬博明 (明大理工)

領域副代表 (2021/4 - 2022/3) 石田 憲二 (京大理)

領域運営委員 (2021/4 - 2022/3)

片山 尚幸 (名古屋大工/実験)、石角 元志 (CROSS/実験)、谷口 貴紀 (東北大金研/実験)、日高 宏之 (北大院理/実験)、柳 有起 (東北大金研/理論)

領域運営委員 (2021/10 - 2022/9)

水上 雄太 (東大物性研/実験)、大同 暁人 (京大理/理論)、関 和弘 (理研 CEMS/理論)、齋藤 開 (東大物性研/実験)

次期領域運営委員 (2022/4 - 2023/3)

下澤 雅明 (阪大基礎工/実験)、鬼頭 俊介 (理研/実験)、橘高 俊一郎 (中大理工/実験)、山根 悠 (兵庫県立大/実験)、杉本 高大 (慶大理工/理論)

参加者：34名 (上記出席者を含めて)

議題1：プログラム編集について (片山)

通常の大会との変更点

1) 5日開催で、3日が口頭発表、2日が総合講演とシンポジウムという変則的な日程となった。ポスター発表は夜間 (19-21時) のオンライン発表となった。

2) 最終的にオンライン開催となったが、プログラム編集の段階ではハイブリッドが予定されていた。3日目午後は人の移動を考え、早めに終わるよう心がけた。

→ 昨年度までの年次大会は口頭発表が3日半だったが今年度は二日半で短かった。その影響で普段はパラレル3つだったのが今回は4つになった。詰め込みすぎで中々見たいも

のが見れないという意見もあり。次期のプログラム編集では出来る限り時間が重複しないようにプログラム編集した方がよい(例、鉄系超伝導と銅酸化物セッションなど聞きたいセッションを被らせない)。

3) 発表賞の審査のため、複数の候補者が同時間帯に発表しないよう、調整が必要。

候補者は8名。一日二日目に入れることは可能。

→ 年次大会のみの話。候補者は最終的に8名。午前午後それぞれ前半と後半で4、2日間で合計8セッション作ることが可能なのでバランス良く全候補者の発表を全て違う時間帯で割り振ることは可能。次年度以降に反映できるとよい。

4) ポスターセッションは1件当たり50発表が限度だが、複数セッションを同時に立てることができた。今回は初日に28発表+28発表の2セッションを同時進行。

→ 今回はd電子系では56発表だった。同時にいくつでも立てることができると連絡があったので2セッションで対応した(今後の参考)。

反省点・提案

1) 編集作業で運営代表と副代表の連携はメール、LINEで対応。Slackが非常に有効という引継ぎ事項があったが、我々には使いにくかった。他の運営委員との連絡は回数も多くないのでメールで十分。

→ 必要に応じて電話も使った。Slackの方が使いやすい場合(次の運営代表と副代表)はそれを使ってもよいがマストではないというのが感想。

2) 領域8主催はシンポジウム1件、チュートリアル講演1件と低調。領域3にお伺いしたが、領域3主催のシンポジウムは0件だったため、実質的に調整はしていない。

→ 非常に少ない。全く調整する必要はなかった。

3) 毎回反省点に上がることだが、他のセッションに関してどの領域とどの程度調整が必要なのかが分かりにくく、混乱した。合同セッションについては、予め引き継ぎ書を読んでおくことを推奨する。

→ プログラム編集で一番分かり難く混乱した。どの領域とどの程度調整するのか全く分からない。他の領域運営委員(領域3や領域5)もよく分かっていない。領域8の引継ぎ書にわりと良く書かれているので直前に予め見直しておおまかな流れを理解した上でプログラム編集にあたることをお勧めする。

一般講演(申込みベース)

口頭	ポスター	合計
----	------	----

低温	158	56	214
磁性	64	49	113
全体	222	105	327

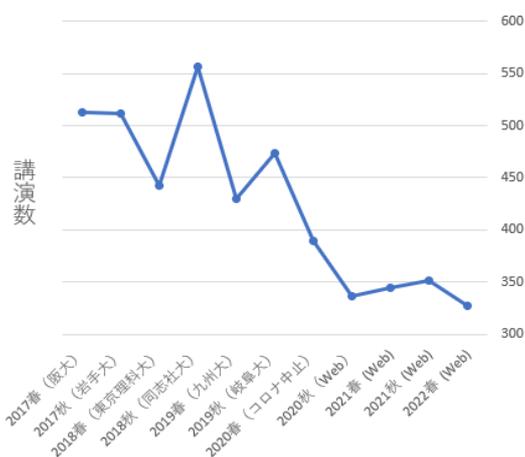
概要提出率：96.1% (322/335, シンポジウム含む)

(参考) 2021 秋 (Web)

	口頭	ポスター	合計
低温	166	60	226
磁性	66	60	126
全体	232	120	352

(参考：過去の講演数合計，新規順)

2021 秋 (Web)	352
2021 春 (Web)	345
2020 秋 (Web)	337
2020 春 (コロナ中止)	390
2019 秋 (岐阜大)	474
2019 春 (九州大)	430
2018 秋 (同志社大)	556
2018 春 (東京理科大)	442
2017 秋 (岩手大)	512
2017 春 (阪大)	513



講演数は減っている。今回が一番少なかった。

ウェブだから参加したくないのか？研究のアクティビティが下がっているか？

議題 2：領域委員会報告 (楠瀬：石田代理出席)

報告事項

1. 担当理事報告 (大槻 東巳 委員長、慈道 大介 副委員長)
 - ・次期領域正副代表、今期領域運営委員の報告
 - ・第 77 回年次大会(2022 年)開催方法について：ハイブリッドで進められていたがオンラインのみへ変更

審議事項

1. 第 77 回年次大会 (2022 年) 招待・企画・チュートリアル講演、シンポジウム講演の採択状況

(1) 素核宇ビーム領域(慈道)

- ・ 招待講演：2件採択、0件不採択
- ・ 企画講演：8件採択、0件不採択
- ・ チュートリアル：0件採択、0件不採択
- ・ シンポジウム（一般）：8件採択（条件付含む）、0件不採択
- ・ シンポジウム（共催）：1件採択、0件不採択

(2) 物性領域(大槻)

- ・ 招待講演：6件採択、0件不採択
- ・ 企画講演：2件採択、0件不採択、
- ・ チュートリアル：4件採択、0件不採択
- ・ シンポジウム（一般）：9件採択（条件付含む）、0件不採択
- ・ シンポジウム（共催）：0件採択、0件不採択

3時間30分を超えるシンポジウムは短くするか、提案書に理由を付記。

(3) 定期的なオンライン大会開催について：意見集約中（今月末まで）

(4) 講演の英語対応：審議終了：領域の裁量で推進してほしい。学会 HP の英語化を進めている。

領域7は独自に推進中。

・シンポジウムや講演は他の領域を含めて少なかった。シンポジウムが4日、5日目になっているせいもあるのでは。オンラインだから？ or アクティビティ下がっている？

APSが重なっていたせいも。シンポジウム提案を出しやすくした方がよい（時間制限など）。

・スライド英語化、反対意見が出ており、学会の方で音頭を取って行うのは終わり、後は領域の裁量で進めて欲しい。領域7は割と積極的にスライド英語化を進めようとしている（領域8の参考になるかも）。英語化は出来たら（外国人研究者が発表する機会増えたら）。

・領域8のシンポジウム提案少ないのが心配。もう少し出してもらいたい。

議題3：次期領域代表・副代表及び運営委員の紹介（片山）

現行委員

領域代表（2021/4-2022/3）楠瀬 博明（明大理工）

領域副代表（2021/4-2022/3）石田 憲二（京大理）

2021/4-2022/3

低温 片山 尚幸（名古屋大工/実験）**運営代表**

石角 元志（CROSS/実験）

谷口 貴紀（東北大金研/実験）

磁性 日高 宏之（北大院理/実験）**運営副代表**
柳 有起（東北大金研/理論）

2021/10-2022/9

低温

水上 雄太（東大物性研/実験） **運営副代表**

大同 暁人（京大理/理論）

磁性

関 和弘（理研 CEMS/理論） **運営代表**

齋藤 開（東大物性研/実験）

現行委員の5名（運営代表の片山、副代表の日高、石角、谷口、柳）は3月いっぱいまで運営委員職を解かれる。来期からは運営代表の関氏、副代表の水上氏を中心として進める。

次期領域代表・副代表及

領域代表（2022/4-2023/3）石田 憲二（京大理）

領域副代表（2022/4-2023/3）有田 亮太郎（東大先端研）

運営委員 任期：2022年4月～2023年3月

下澤 雅明（阪大基礎工 低温・実験）

鬼頭 俊介（理研 低温・実験）

橘高 俊一郎（中大理工 低温・実験）（**運営代表 承認待ち**）

山根 悠（兵庫県立大 磁性・実験）

杉本 高大（慶大理工 磁性・理論）（**運営副代表 承認待ち**）

次期運営代表と運営副代表は承認された。

次期の方全員から一言挨拶があった。

議題4：次次期領域運営委員の推薦及び承認（片山，関）

寺嶋 健成（NIMS 低温・実験）

白川 知功（理研 低温・理論）

大塚 雄一（理研 磁性・理論）

清水 悠晴（東北大金研 磁性・実験）

任期：2022年10月～2023年9月

次次期運営委員の四名から一言挨拶があった。

領域8で取りまとめて物理学会に推薦する（この場で承認された）。

議題5：そのほか（楠瀬）

[jps-f8 02936]

定期的なオンライン大会の開催について 意見集約中

- ・締め切り：2022年3月31日（木）
- ・宛先：領域8代表・副代表 jpsf8info@gmail.com

=== 現在までの意見 ===

- | | |
|--------------------------------|-----|
| (1) 年会は現地開催、分科会はオンライン（+ハイブリッド） | 50% |
| どちらか1回はオンライン | 10% |
| ハイブリッド主体（現地開催が困難な場合） | 10% |
| 年会を秋に移した上で現地開催、分科会をオンライン | 10% |
| (2) 両方とも現地開催 | 10% |
| (3) 2回ともオンライン（現地参加も可） | 10% |

・オンライン利点：

 旅費等の削減、年度末業務負担の軽減、格差の是正

・オンライン欠点：

 学生の交流面(大学の重要な役割)、短い学生期間における対面機会の確保

詳細意見も含めて、理事会へ提出します。

上記の補足

- ・1回はオンラインが多めの意見
- ・年会の方をオンラインにするのが若干多め。
- ・大規模な大学はオンラインになっても他に機会があるが、小規模な大学だと対面で議論の機会は非常に重要という意見もある。講演数だけを見るとオンラインでOKのようにも見えるが、小規模な大学にとっては深刻な問題。

その他の議題

1) 運営委員への負担が大きい

他のセッションを回れなくなる。考慮すべき。

ホストのシステムは必要か？物理学会がホストをしていれば良いのでは。

トラブル対応、座長の補佐（代理）、負担は大きい（2セッション/全体で10セッション）。次次期の運営委員にまで負担（最初は座長のバックアップの意味合いがあったが、学生アルバイトでも良いのでは）。

座長の代理なら意味あるがセッション維持だけの意味合いなら運営委員が張り付く必要はない（座長のオンラインが落ちた場合を想定）。

座長代理は運営委員のOBなど自発的に率先して行うべき。

オンライン運営の意見として取りまとめて提出した方がよい。

2) 2023年秋季大会のオンラインは決定されている？

2023年春季大会はオンラインで決定されている（会場の問題？）。

2023年春季大会 オンライン

2023年秋年次大会 東北大 までは決まっている

オンラインと現地を一回ずつ → 次次年度からの話

年次大会が秋になると学生賞はどうするのか？段取り&スケジュールが変わる。

領域8ルールでは年次大会に行うということになっている。

領域代表から挨拶

意見とりまとめまでは楠瀬先生が行う。提出は石田先生。

現行運営委員終了5名から挨拶（実際には4名）。

→ 3月末で退任、その後引継ぎとなる。

インフォーマルミーティング終了後 (-19:35)

1) プログラム編集に関して

最初のプログラム編成について時間を延ばしたらどうかという意見があった。

2) 次次期運営委員の役職を決める

「代表」橘高氏、「副代表」杉本氏以外のメンバー

→ 「学生賞」下澤氏、「Web担当」山根氏、「書記」鬼頭氏、に決定した。

3) 学生賞はどの次期におこなうのか、運営委員で話し合われた。

以上